

代 表 者

小田

研 修 報 告 書

令和 6 年 8 月 1 0 日

会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

小田 晃士朗

坂井 誠臣

横地 祐子

次のとおり研修に参加したので報告します。

1. 研修期日

令和6年8月5日（月）～6日（火）

2. 研修項目

全国若手議員の会「30周年記念式典及び総会・研修会」

5日（月）

- ・千葉市役所新庁舎の役割について
- ・千葉県知事講演

6日（火）

- ・議会改革サミット『取手市・墨田区・登別市の議会改革について』

3. 参加議員

小 田	晃士朗
坂 井	誠 臣
横 地	祐 子

4. 随行者

無し

■研修項目

1、2：千葉市の防災対策センターの運営について

3：令和の地方自治のかたち（議員・市長・知事の経験から若手議員に期待すること）

4：取手市・墨田区・登別市の議会改革について

・研修対応者

千葉市役所 新庁舎整備課	峰 様
千葉市役所 秘書課	檜 様
千葉県知事	熊谷 俊人 様
登別市議会議員	辻 様
取手市議会副議長	石井 様
墨田区議会議員	佐藤 様

・研修期日

令和6年8月5日（月）午前11時00分～午後15時30分（千葉市役所内）

令和6年8月6日（火）午前11時30分～午後12時30分（衆議院第一会館）

・千葉市の概要

人 口：984,453人

世帯数：474,169世帯

（令和6年7月1日現在）

中央区・花見川区・稲毛区・若葉区・緑区・美浜区の6区からなり、面積は271.76km²。

東京都心から約40キロメートル東にあり、東京のベッドタウンとしても機能する県庁所在地。

・研修目的

- ・千葉市の防災対策センターの運営
- ・令和の地方自治のかたち
- ・議会改革

・研修内容

1 千葉市役所新庁舎について

旧庁舎は昭和45年に建設され、半世紀以上経つこと、老朽化や環境性能の不足、また、耐震性の不足に加え、防災時の業務継続性に問題を感じたことから、新庁舎ではこれらの課題を解決するべく新築された。

延べ床面積は48,889m²、地上11階建て（高さ52m）、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）の基礎免震構造とし、総事業費295億円を投じて建設された。

高層棟と低層棟に分け、来朝者の多い執務室や市民センター、議会エリアをモノレール駅、来朝者用駐車場からアクセスしやすい低層棟に配置し、その他の本庁舎機能を高層棟へ配置している。

環境性能面においては「ZEB Ready」（Net Zero Energy Building）認証を取得するなど、太陽光発電をはじめとした、BEMS（エネルギー使用状況の見える化）や排熱を利用した高効率空調の導入、地中熱・雨水・井水を利用したトイレの洗浄水

や植栽の散水に使用するなど、ZEB Ready 認証取得に必要な 1 次エネルギーの年間消費量 50% 以上削減に沿うかたちで整備されている。

また、ユニバーサルデザインを用いて、年齢・障害の有無・性別・国籍に関わらず安全に利用できる庁舎を目指し、ベビー休憩室や多様な来朝者に配慮したトイレなど、様々な工夫を凝らしている。現在、補助犬トイレも建設中。

2 千葉市役所防災機能について

千葉市役所新庁舎は、大規模災害時の対応拠点として整備されていることも特徴である。

防災対策センターの運営について詳細（次段に記載）に説明された。センターは大規模災害時の対応拠点として整備されており、高潮の最大想定に対応できる高さの位置に非常用発電機を備える。また、72 時間の電力供給が可能で、職員用の備品も整備されている。

・災害時の関係機関の連絡調整室について

この部屋は、国（内閣府、国土交通省）、自治体、自衛隊などの関係機関の担当者が集まり、災害時の情報共有を行う場所となっている。部屋の設備は最小限で、関係機関が自身の端末を持ち込んで作業を行うことができる。部屋の間仕切りを取り払えば、隣接する災害対策本部の会議室とも連携して、より広範な情報共有が可能になる。収容人数は 60 名から 70 名程度を想定している。

・危機管理センターの設備と機能について

センターには災害対策本部が設置されており、マルチモニターやウェブカメラ、マイクなどの設備が整備される。また、総合防災情報システムが導入され、災害情報を地図上で共有したり、現場からデータを送信したりできるようになっている。システムの導入費用は 5 年で約 4 億円。

3 令和の地方自治のかたち（議員・市長・知事の経験から若手議員に期待すること）

・はじめに

熊谷千葉県知事をお迎えし、全国若手議員の会 30 周年記念講演が行われた。熊谷知事は、地方自治体の役割や市民に対する行政のあり方について、実際の経験を交えながら講演を行った。

・市民との交流とオープンな行政

市民が市役所を身近に感じられるようなオープンな空間づくりを推進してきたことを紹介。市役所が日常的に市民の交流や勉強会の場として活用され、災害時には対策本部として機能する多目的な役割を果たしていると述べた。

・議会と行政の関係性

講演では、議会が行政執行部と積極的に意見交換を行い、政策の方向性を理解し、それを支援する重要性が強調。議会が行政に対して挑戦的かつ建設的な提案を行うことが必要であると述べた。

- ・ 地方自治体の課題と役割

人口減少や技術系職員の採用難など、地方自治体が直面している課題に言及し、都道府県が市町村を支援する体制の必要性を訴えた。特に、基礎自治体の重要性が強調され、今後の地方自治体の存続と発展に向けた取り組みの重要性が示された。

- ・ 子育て支援と少子化対策

子育て支援策と少子化対策の違いについて説明があった。少子化対策としては、未婚化や第2子以降の出産を促進するための環境整備が必要であると指摘した。

- ・ 教育政策

少人数学級に対する投資効果が低いことを指摘し、教員を専門教育や副担任として配置する方が効果的であると主張。また、教育においては質が重要であるとの考えを示した。

- ・ デジタル化と働き方改革

デジタル技術の導入や男性の育児休暇取得の推進について、特に、育児休暇を取らない理由を書かせることで取得率を高めた事例が紹介された。

- ・ 企業誘致と都市計画

企業誘致の重要性と、産業用地の整備に行政が積極的に関与する必要性が述べられ、企業誘致活動を通じて地域の強みを理解し、都市計画に反映させることの重要性が強調された。

- ・ 質疑応答

地方自治体の少子化対策に関する質疑応答が行われた。熊谷知事は、人口減少に対する地方自治体の戦略について、子育て支援策は選挙対策として行われがちだが、本来の目的は未婚化や晩婚化の解消、第一子出産後の支援にあるべきだと述べた。

4 議会改革の実績と取り組み

- ・ 概要

登別市議会、取手市議会、墨田区議会の3つの議会から、それぞれの議長や副議長が参加し、議会改革の取り組みや課題、今後の方向性などについて意見交換を行った。主な議題としては、オンライン会議の導入、多様性の確保、住民参画の促進、事務局との協働体制の構築などが挙げられた。各議会の具体的な事例や成功体験、失敗事例を共有しながら、議会改革を進めるための示唆を得ることができた。

- ・ 議会改革の取り組み

登別市議会の辻議長は、議会改革を着実に進めてきた経緯を説明。課題解決型の志向が強く、成果主義的な意識が根付いていることが特徴だと述べた。

取手市議会の石井副議長は、議会改革度ランキングで高い評価を受けていることを紹介し、「やってみよう」の精神が重要だと強調した。

墨田区議会は、都内で1位の評価を受けており、会派の垣根が低く、話し合いによる合意形成が特徴だと説明された。

- ・オンライン会議の導入

コロナ禍を契機に、オンライン会議の導入が進められた。

取手市議会では、女性議員による議会改革委員会の提言を受けて、オンライン本会議が実現した。

登別市議会では、多様性の確保を目的に、子育て中の議員や看護介護の議員もオンラインで参加できるようになった。オンライン会議は、場所に捉われずに議論できる利点があり、多様な人材の活躍を後押ししている。

- ・住民参画の促進

議会改革の先には、住民が実感し、政策に反映されることが重要だと指摘された。登別市議会では、議会サポーター制度を設け、市民の意見を議会に反映させる取り組みを行っている。

墨田区議会では、会議資料をホームページで公開し、住民からの意見を受け付けている。

取手市議会では、ワールドカフェ方式を取り入れ、住民との対話を重視。特別委員会を中心に、政策形成サイクルを回すことで、住民の声を政策に反映させている。

- ・事務局との協働体制

議会事務局との協働体制の構築が重要視された。

登別市議会では、事務局の提案制度を設け、事務局職員がステークホルダーとしての意識を持つよう促している。

墨田区議会でも、事務局提案権を規定しており、事務局職員の提案を受け入れる体制を整備している。

取手市議会では、条例に規定はしていないが、日常的に事務局職員の提案や議論に加わってもらっている。事務局職員の視点を生かすことで、議会運営の改善につながると期待されている。

【呉市での展開の可能性】

- ・千葉市役所新庁舎について

本市では2015年に新庁舎が建設されたが、昨今の災害の規模を鑑みた場合に、千葉市役所ほどの機能を備えているとは言えないところである。しかし、本市では市役所に隣接した場所を、防災公園として再整備するなど、今後起こりうる災害に対する準備を進めているように感じている。

千葉市の複合防災拠点としての在り方は、本市でも学ぶことが多いと思うので、引き続き本市への展開の可能性を探っていきたい。

- ・千葉県知事講演について

全国若手議員に対する講演ということもあり、若手首長としての発言に共感できる部分が非常に多かったように感じた。

企業誘致と都市計画の在り方においては、本市の不得意とする分野であると考えているので、改めて他市事例調査の必要性を感じた。

熊谷知事においては、千葉市議会議員から千葉市長、千葉県知事というように、その土地の行政に継続的に関わっていく姿勢が、自ら思い描く行政の在り方を実現するために必要だと感じると同時に、議員の高年齢化は今後非常に大きな問題となっていくことは本市

も同様であり、熊谷知事のような人材を発掘、もしくは育てていくことが、本市の発展において必要である。

・議会改革について

本市の2023年の議会改革ランキングは133位と、2022年の106位に比べて落ちている。しかし、トップ100までの点数差は100点ほどであり、大きな差は無いと考えている。これは、他自治体の改革が大きく進み始めたことが要因であり、決して呉市の議会改革が遅れていない、むしろ今までの取組みが先進的であったことを証明していると考えている。

その中で、改革が停滞していることが、評価ランキングを下げる要因にもなっているのではと感じた。

今後、どのような議会改革ができるかを会派全体で考えて実行していく必要がある。

